

「mediLink版イヤノート」の活用で国試合格!

北海道大学 H.Wさん

理解のお供に「YNアプリ」

多くの医学生が、「Q-Assist」や各社のネット講義をベースに国試対策を進めていると思います。私もその一人でした。私が利用したネット講義では、講義資料をPDFで配布しており、その資料をマスターすることに腐心しました。その際に活用したのが「YNアプリ」です。講義中に紹介された疾患の病態や、ふとした疑問を解消したいと思ったときに、「YNアプリ」で調べました。

検索性の高さが強み

講義中に「治療法がわからない…」といった時に、疾患名や症候など様々なアプローチで調べ物をしますが、「YNアプリ」の強みはその検索性の高さだと思います。検索ワードを含んだページがすぐ表示されます。

また、イチオシの機能は「mediLink」内のコンテンツを横断的に検索する「串刺し」検索です。「YN」の記載に加えて「病気がみえる」などで求めている記載が見つかることもあります。また、見つけたお気に入りの図表は、スクリーンショットで保存し、講義ノートに貼り付けて、何度も目に触れるようにして記憶の定着を図りました。

「YNアプリ」では、国試既出事項が青字として表示されます。青字をタップすると国試番号が表示され、その番号から「QB online」に飛び、当該国試問題を確認することが可能です。

これは2つの点で極めて有用です。第一に、青字の「鮮度」が分かります。同じ青字でも、昔1回のみ問われた内容と、過去5年以内に3回問われた内容では、どちらが国試的に“アツい”内容かは自明です。

第二に、青字内容が実際の国試でどのように問われたかをシームレスに確認することが

できます。あわせて周辺の黒字にも目を通し、単に青字だけを追うキーワード学習にはならないように努めました。

『YN』は次の国試できている!?

国試受験生の中では「過去3回分の対策はガチれ」という常識があると思います。113回受験生の私は112A57（正答率 48.3%）「ビグアナイド薬の副作用」に関して調べていました。すると、そこには「専」マークがあり、「専門医試験で出題された内容は次の国試で出るのでは…」と疑問が生まれました。（編集注：最新版では「内」マークに変更。認定内科医・総合内科専門医試験に関わる内容を示しています。）

そして、「YNアプリ」の該当箇所には「内服下でヨード造影剤を使用すると乳酸アシドーシスを来しやすい」という記載がありました。

こうして受験した113回。ズバリ、113D21（正答率 73.1%）にて関連問題の出題がありました。専門医試験に出題されるほど、臨床的意義があるのであれば、次回以降の国試で出題されてもおかしくないと感じました。

さいごに

何事も一長一短ですし、十人十色です。私の使い方は一例としていろんな勉強法を試してください!



ほかにも参考になる先輩方の体験記を掲載しています!
Webでcheck!